（別紙4）　　平成　24　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4392800050		
法人名	矢部開発株式会社		
事業所名	グループホーム緑仙館		
所在地	熊本県上益城郡山都町仏原９－１１		
自己評価作成日	平成25年1月10日	評価結果市町村受理日	平成25年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13－12－205
訪問調査日	平成25年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者の主体性・自主性を大切にしている。無理なくありのままで個性を尊重し自己表現できるような雰囲気を大事にしている。

中山間部の中に、公的機関の施設を利用して作られたホームでは、昨年度の評価を真摯に受け止め、厨房などハード面での改善が図られ、入居者のありのままを受け入れる等“今”を視点にしたケアや地域での生活が充実しており、明るくのびのびとした生活ぶりにグループホームの真髄が表れている。厨房で一緒に料理に取組む入居者や入居者同士の語らいの場、「よかばっかり」と職員に変わりホームの現状を代言される方等本人本位の自由な日常は、職員の関わりの深さの成果として挙げられる。地域に支え・支えられる関係が深まり、入居者が主役になれる保育園運動会、区の助成金による桜の苗の贈呈もあり、緑仙館便りによる地域への啓発が浸透し、地域の中であたりまえの生活が繰り広げられている。管理者を中心に業務分担制としながらも意思疎通も良く、家族への独自アンケート等を生かしたホーム運営や入居者の発言による手作り炬燵等入居者・家族と一体となった取組みや職員の持つ力量により家族的な雰囲気を醸し出したホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）		1. 毎日ある
		○	2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

事業所名：グループホーム緑仙館

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を柱としてそこから何事にも繋げていけるようにと考えて会議の際など理念に気をとめるよう「仁徳」をとりあげたりしており、掲示している。	職員全員で作り上げた理念「仁徳」を規範として、入居者の“今できる事”や“ありのまま”を受け入れ、支援したいと毎月の会議の中で話し合っている。方向性や立ち返る原点を理念として、倫理規定や行動指針等をケアに繋げている。入居者の伸び伸びとした生活ぶりや職員との会話の中に、温かみのある家庭的なホームの形成が確認された。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新しく開設した施設へ訪問したり、保育園での運動会や文化祭や祭りへの外出・近所の小学生の訪問。近所のお店への買い物・地区のﾄﾞﾝﾄﾞﾔ案内あり参加させていただいた。	元公的施設の跡地である立地条件や地区の助成金を活用し桜の苗木の贈呈やどんどや等行事へのお誘い等区長との関わりが深まり、地域での生活基盤を確立させている。歩いて行き来できる小学校への運動会参加をきっかけとして音楽クラブの訪問や花の苗を持参してくれたり、保育園の運動会では入居者が主役になる場面を作ってもらえる等相互交流に取り組んでいる。職員による“緑仙館便り”の地区住民への配布もホームの啓発としていかされており、地域の一員として当たり前の生活が繰り広げられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験受け入れ実施 認知症について中学生なりの理解へ少しばかりは働きかけができたと感じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価報告内容に関して感想を聞く機会があった。評価項目が多いのに驚かれたり、知らなかったことが見れて良かったとこれからも頑張ってくださいと感想をいただいた。	社協・包括支援センター・区長・老人会長・民生委員や町議及び家族をメンバーとして2ヶ月毎に開催する運営推進会議は、評価結果を報告し改善に向け進捗状況の説明等モニター役として活かされ、ヒヤリ・ハットや事故等を報告しながら意見交換が行われており、徘徊時対応や防災対策等の提案が出されている。開催日が第一木曜日であることから家族の参加は少なく、議事録を送付し共有化を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターより相談があったり、運営推進会議への参加もあり相談や現場の様子なども伝えることができている。	町担当者から研修案内や時節に応じた資料（ノロウイルス等）が発信されている。 地域包括支援センターから在宅生活困難者相談や紹介等もあり、運営推進会議を通じて何事も相談できる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設当初より、拘束に関してはしないとしており今後もそうしていく方針であるがやはり、何気ない瞬間にスピーチロックがあるので改善していきたい。	身体拘束及び虐待を行わないことを方針として、マニュアルを整備し研修により再認識している。職員の声かけ「だめ」と制止する声が聞かれると、会議の中で事例を通じて話し合い、一呼吸おいて声かけすることを申し合わせている。入居者個々の外出傾向を把握し、出かけたいとの思いに一緒に散歩やドライブに出かけているが、「自由に一人にしたい」とする方もおられ、見守りの徹底やホーム前が国道であり「スムーズに渡らんと危なか！」と入居者も注意しながら自由に生活されている。	今後も、職員の声かけには職員同士が注意喚起できる環境作りに取り組まれることを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事例検討を行い考えるようにしている。勉強会前に設問に答えてもらい勉強会後感想及び目標を明確に各自考えてもらったりして防止につとめている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は、研修の機会はなかった。勉強会計画もしていなかった。今後勉強会で取り組みたい。研修の機会があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明して変更同意書に同意していただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護計画作成・モニタリングの際、そして家族アンケート等を実施して意見・要望をうかがうようにしている。	家族の訪問時（モニタリング時等）意見が無いか聞き取りしたり、毎年アンケートにより介護への不安や不満、職員の言葉つかい等を聴集し、ホーム運営に反映させている。入居者との関係構築は入居者との会話に表れており、「こたつがあるといいね」との発言に、職員による手作りこたつを用意する等サービス向上に繋げている。	家族会は無いが、行事参加が家族との交流会として活かされており、家族が集われる場の中に意見交換会等を組み入れることを検討し、今後も忌憚の無い意見や要望を聴集し、ケアサービスに反映されることが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度の会議に参加することで、職員とのコミュニケーションはもとより大切な連絡・報告・相談・提案が直接会話できる機会があると考えている。	施設長は運営推進会議時に職員会議を同日に開催し、職員の意見や提案を聞き取りしたり、個別面接を行っている。管理者を中心として意思疎通も良く、業務分担制としたなか、マンネリ化対策として担当を変更したり、サブリーダーが職員の悩み等に応じ、必要時には管理者と相談する体制としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務の担当や利用者の方々の担当を決める事で職員のモチベーションを高くもつことが出来、また労働環境に対しての意見も聞き働きやすくできるように改善したいと考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修参加は、現状的に厳しく少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や地域の担当者会議に参加している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	経過をみながら少しずつ必要な支援の判断をしながら希望を聞きながら支援の方向性をみつけていくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の話し合いや経過みながら、電話連絡などしながら、家族の不安や要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状の機能や能力を観察しながら支援の必要なこと。そうでない事。また、家族の希望されていることを確認しながら対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	受身になられないよう気をつけている。一緒に作業したり、入居者同士で作業される事を見守ったり。教えていただいたり、手伝っていただいたりしながら過ごすようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出・外泊や病院受診時に付き添っていただいたり行事への参加時は手伝っていただいたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者全員ではないが、自宅へ外出したり、電話連絡の支援をしたり、会いたい人に会いに行ったりと支援を実施している。	家族総出で訪問し米寿の祝いをされた家族や週毎に自宅に帰り近隣住民と歓談される入居者、墓参や法要、葬儀参列等家族の協力により実現している。家族との定期的な外食や、読書好きという入居者には図書館に一緒に出かける等趣味や馴染みの関係継続に努めている。また、入居者同士の関係作りも注視して支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性もあるようですが自分で判断されて行動されることを見守っているトラブルにならないよう気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族が来館してくださったり、行事の参加案内をしたり、手紙を送ったりしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を聞きながら努めているが具体的に言われることは少ないので生活の様子から快・不快・楽しい・安心をみつけられるよう努力している。本人の気持が一番であると思っている。	職員との関わりの中で思いを発するかたや、失語症・会話不能等に目を見て感じとったり、笑顔をバロメーターとして推察する等一人ひとりの気持ちに寄り添うながら、本人本位になるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に今までの様子をうかがう様にしている。会話の話題や記憶の状況を知るうえで活用できることもあるし何より本人さんのことがわかるようにと考えている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の観察は勿論のこと、無理のないよう体や心に負担がないよう過ごされるよう努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	まだまだ十分ではないがケアマネジャーだけでないようにと、担当を一人ひとりもっておられるのでモニタリングする機会などスタッフが関わっていけるようにと努力している状況である。	生活全般の課題をもとに暫定プランを作成し、本人・家族・担当職員・介護計画担当者での担当者会議により家族の同意を得たうえでのプランを作成している。半年毎のモニタリング（本人や家族に生活上の不満や心配事等を聞き取り）やアセスメントを取り直し、目標達成シートにより達成度を見極め、新たなプランを作成している。詳細で具体的な個別プランが作成されている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	話すことでの共有はできていると思うが記録に残しそこから展開していくというところまではできておらずまだまだ、記録としての情報が不十分であるように思われる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今日行きたい　今から行きたいと予定があってではない利用者の行動にはなるだけ希望に添えるようにしている。事業所の都合で考えることはしていないと思われる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだまだ十分ではないが近所の図書館を利用したり近所に買い物へ出掛けたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族に相談しながら疾患の状況に応じかかりつけ医を変更したり、受診後の結果を家族へ報告したり医師への相談などしやすい関係にあると感じている。	入居者・家族の希望により入院をきっかけに協力医に変更したり、入居前からの馴染みの病院でもある協力医療機関を全員がかかりつけ医とされており、其々の主治医での受診をホームや家族同伴で支援している。バイタルチェックを実施し、日頃の観察目安の基準を掲示する等異常の早期発見や早めの受診に努め、状態や服薬に関しては医療ノートを作成し職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	報告・連絡をしながら定期以外での受診ができている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院で開催される担当者会議や受診時での情報交換ができており相談しやすい関係ができている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	最期はホームでとの希望がほとんどである。家族の希望がおもになるが医療行為とホームでできることを話し合い方向性を決めている。	本人・家族の意向を第一にその時のケースによる対応としており、家族アンケートで希望を聴集している。重度化時は主治医を交えた話し合いや訪問看護との連携を図り、医療への依頼度次第でホームでの看取りを支援している。往診や訪看との連携で実施された支援に家族からの感謝の言葉が寄せられている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練とまではいかないが、勉強会の中で話しあっている特に夜間は一人なのでシュミレーションしていなければならないと思われる。必ず応援者を呼ぶことにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練の実施年2回　近所の方の協力のもと実施している。	消防署立会いと自主訓練の年2回の火災避難訓練を昼夜想定で実施し、近隣や家族の協力は自宅を避難場所に申し出て貰う等心強いものとなっている。火元チェックやコンセントの埃点検・喫煙場所の管理を行い先ずは火を出さない事を意識付け、連絡方法の検討や非常口のスロープ改善等有事への取り組みが窺われる。冬場の水道管破裂や、自然災害時の対応は関連会社との連携を図る事としている。	緊急時連絡網や地震・土砂災害マニュアルを整備し、非常持ち出し袋が用意される等、非常時対応の危機意識の高さが確認され、今後は食料備蓄等を検討され、より強靭な防災対策とされる事が期待される。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	馴れ合いにならないようにと気にかけ行動するようにしている。	一人ひとりの入居者によって呼称も違っており、親しみのある方言での語りかけや自然体での対応の中にも馴れ合いとならないように、一人ひとりが所作言動を振り返ることを申し合わせている。個人情報保護方針や職員の守秘義務を記した行動指針を掲げ、研修により意識付けとし、尊厳やプライバシーの確保に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフの押し付けにならないように注意している。話かけやすいような表情動きにきをつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日9名が満足しているということはできないが希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型や服装気にかけて支援している。自分で決められる方もおられるしスタッフの介助での方もおられる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	数名の方が台所での手伝いをしてくださる。 食事形態観察して自分で食べる行為を大切にしたいと考えている。	入居者の好みを取り入れた献立を作成し、畑で収穫した野菜を利用したり、一緒に買い物に出かけている。床の改修で入居者が入りやすくなった台所で、職員と入居者が一緒に調理や後片付け等に取組み、個々に合わせた食器により自力での食事を心がけ、職員は介助や見守りをしながら一緒の食事を摂り、会話を楽しみながらの食事である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事の観察は体調に関わるので注意して観察している補助食のゼリーを取り入れたりしてバランスも工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けや介助だったりであるが口腔衛生に努め清潔保持に努めていえる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	実施している。それぞれに応じて工夫している。できるだけトイレやﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙトイレを活用されるよう支援している。	殆んどの入居者が布下着で過ごされており、冬場・夜間時等の排泄用品の検討し、経費節減も視野に失敗のない支援に取り組み、定期的な声掛けによりトイレ誘導を行っている。一人ひとりの残存能力を活かし、出来る事には手を出さず見守りで対応する等、プライバシーへの配慮や自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分とはいえないが工夫している。結果下剤を服用されている方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	男性・女性と隔日に実施している。気候に応じて時間を考えたり　相性のいい人同士で一人がいいなど希望に応じている。	自分で入浴される方には声かけで必要な部分を介助したり、二人で一緒に入られる方等希望に合わせ、気候や気温にも配慮し時間調整を行っている。拒否に対しては無理強いをせず、声かけや誘い方を工夫し、一人ひとりに添い支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温を調整したり、湯たんぽ使用されたり時には添い寝したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方内容はフアイルに綴じいつでも見れる場所に置いている。服薬の確認行なっており状態観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出・畑での作業・館外の草取り・洗濯物干しや取り込み冬場は仕事が減りますがその日に応じて手伝っていただいている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の方に手伝っていただくことはありませんが家族と遠方へでかけられり近所へはよくでかけている。	ホーム周辺や近くの小学校まで散歩したり、畑の手入れや買い物等、入居者の外出傾向も把握し外に出る機会を持っている。地域の祭りや保育園の運動会等は入居者の楽しみとして生かされ、「天気の良かけん何所かに行こうか」との希望も外出に繋がっている。又、家族の協力で自宅に帰られたり外食を楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物される時見守りしている。レシートは管理させていただき家族へ報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人への手紙や電話　年賀状など支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外へ視線を向ければ外の風景が見える状況なので季節感は感じられるように思われる。空間は広くはないがかえってすぐそばに人と居る安心感はあるように思われる。	入居者の見慣れた山や畑が見渡せる日当たりの良いホームのリビングは、畳スペースに入居者の声に応え、急きょ炬燵（手づくり）が作られたり、新たに台所の床張りや見守り用の小窓の設置等入居者目線での対応は居心地良い空間となっている。行事の写真や入居者作品を掲示し、温湿度管理の徹底や小まめな清掃で清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にそれぞれ座るところがある。 しかし、ほとんどリビングの自分の場所におられることが多くそこへ集まって来られる。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の物は本人さんの私物でありそれぞれに持ち込まれている。	本人が落ち着ける使い慣れた品物の持ち込みを入居時に説明し、タンスやテレビ・家族写真等が持ち込まれ、趣味の編み物の毛糸が置かれたり短歌作品を掲示する等、その方らしい部屋となっている。ベッドは動きや見守りを考慮した配置であり、衣替えも入居者と相談しながら家族や職員によって支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	書いて表示したり目印をしたりしている。		